

2021年2月7日 礼拝説教要旨:フィリピ書シリーズ(1)

フィリピの信徒への手紙 1:1~7 「喜びをもって祈る」

高井 卿 介

今回、使徒パウロの四通の獄中書簡(エフェソ、フィリピ、コロサイ、フィレモン)の中で、恐らく最も親しまれていると思われる、フィリピの信徒への手紙を取り上げて話したい。

I. 挨拶(1~2節) 「恵み」と「平和」

先ず、この手紙の書き出しの1節と2節が挨拶の言葉である。そのパウロの多くの手紙の挨拶では自分が「使徒」であることを主張することが多い。

しかし、この手紙では「キリスト・イエスの僕である」と主張している。ギリシャ語では「僕」は「ドゥロス」と発音して「奴隷」を意味する。

もう一つこの挨拶の特徴は「恵みと平和(平安)があるように」と祈っていることである。この挨拶の言葉は、13通全部のパウロの手紙に使われていることばで、謂わばパウロの手紙の「トレードマーク」と言える。

「恵み」のギリシャ語は「カリス」で、これから「カリスマ」という有名な言葉が出来た。また「平和」は「エイレーネ」と言って、教会史の中にこの言葉が変化した最初の神学者と言われる「イレナイウス」という使徒ヨハネの孫弟子に当たる人がいる。

II. 神への感謝(3~5節) その源泉、方法、理由

パウロの親愛に満ちた挨拶の言葉が終わると、最初に目に飛び込んで来る言葉が、「感謝」(ユーカリスト)である。この言葉は現代でもギリシャ人は「ありがとう」と感謝する時に、これと同じ言葉を使う。但し、発音は「エフハリストー」と言うらしい。

①感謝の源泉…「あなたがたのことを思い起こすことによって」(3節)であった。パウロは自分が設立した教会が全て感謝を思い出せるとは限らなかった。しかし、フィリピ教会には手放して感謝出来たのであった。

②感謝の方法…この手紙はローマの獄中で書いているので、「あなたがた一同のために祈る度に」(4節)とあるように、祈りの中で感謝したのである。私たちは祈りの中でどれ位感謝しているだろうか。お願いばかりが多いのではないだろうか。

③感謝の理由…「福音にあずかっているからです」(5節)。「あずかる」のギリシャ語は「コイノニア」と言って、その意味は「交わる」「共有する」「シェアする」「参加する」「協力する」で、パウロの福音宣教の働きにコイノニアしていたことに対してであった。

III. パウロの確信(6~7節) その過去、現在、未来

パウロは「善い業を始められた方」即ち、神が福音宣教の「善い業」を「成し遂げてくださると…確信しています」(6節)と宣言した。

その時期について、三つの時を見る。①「最初の日」(5節)、「今日(こんにち)」(5節)、「キリスト・イエスの日」(6節)で、

「最初の日」とはパウロが最初にフィリピで宣教を開始した日、過去の時である。「今日」とはパウロが入獄中の今、現在の時である。「キリスト・イエスの日」とはイエス・キリストの再臨される日を意味する。これは将来、未来の時である。